

平成29年度

# 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 授業公開案内

学ぶって、たのしい!

＊学生と一緒に学んでみませんか？

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部では、地域みなさまに、正規授業を公開いたします。

「大学で学んでみたい」「元気になりたい」みなさまをお待ちしています。



## 1. 受講料の支払いについて

**【募集期間】** 平成29年6月1日（水）～9月11日（月）消印有効

**【受講資格】** : 18歳以上の方

**【申込方法】** : 添付の「平成29年度 鈴鹿大学・鈴鹿短期大学 授業公開申込書」  
(以下「申込書」) を用いて募集期間内に郵送・FAXまたは大学に持参してください。  
申込書・受講料納入確認後、「受講票」を送付いたします。

自動車、バイクで通学を希望の受講生の方は、申込書の下「駐車・駐輪許可願」も  
ご記入下さい。

**【受講料（1科目あたり）】** : 10,000円

下記の銀行口座に申込書送付後1週間以内にお振り込みいただくか、  
大学・短大にご持参ください。

また、別途テキスト代がかかる場合があります。（教科書販売4/6～4/12予定）

百五銀行 鈴鹿支店 (普) 1066777  
ガク) キョウエイガクエン  
学校法人 享栄学園

### 【受講上の注意】

- ・ 本学の正規の授業を聴講生として受講していただきます。  
授業内容は受講生の方に特別に配慮したものではありません。
- ・ のちに本学に入学された場合は受講された科目の単位を認定します。  
(不開講にならない限り) ※試験・成績判定必須
- ・ 受講料は特別な事情のない限り払い戻しいたしません。
- ・ 学生の受講が少ないなどの理由により授業を開講しない場合があります。あらかじめご了承ください。  
(この場合、受講料は払い戻します)
- ・ 申し込み多数の場合は各科目先着順50名程度で制限させていただきます。  
(受講受付ができない場合、受講料は払い戻します)
- ・ 託児施設等がございませんのでお子様連れはご遠慮ください。
- ・ 曜日と時限が同じである授業を重複して申し込むことはできません。
- ・ 申し込みされた方の個人情報には本授業公開以外の目的には使用いたしません。

### ■ 学生ホールに情報収集・交流の場を設置！！

### ■ 年度末に修了式を開催！！（2018年1月下旬予定）

### ■ 授業15回の内、10回以上出席された方に、修了書を授与！！

#### お申し込み・お問い合わせ先

〒510-0298 三重県鈴鹿市郡山町663-222  
鈴鹿大学・鈴鹿短期大学 学生支援課  
TEL:059-372-3940 (直通) FAX:059-372-3935  
e-mail:kyomu@m.suzuka-iu.ac.jp  
http://www.suzuka-iu.ac.jp

お問い合わせ及びお申し込みの受付時間は平日（月～金）の9:00～17:00です。

## 2. 授業公開科目 (教室については、後日、受講票と一緒に時間割表を送付します。)

	【前期】授業科目	担当講師	曜日	時限
1	社会学	川又 俊則	月曜日	1 時限
2	【短大部】生コミ特講Ⅲ (音楽療法概論)	木村 有里		1 時限
3	観光ビジネス論	崔 載弦		1 時限
4	ビジネス英語 I	アントニオ ジャン ピエール		3 時限
5	マーケティング論	今光 俊介		5 時限
6	モータースポーツ・マネジメント	富本 真理子 / 郭 育仁	火曜日	2 時限
7	企業論	渡邊 聡		3 時限
8	韓国語 I / 韓国語 I - 1	舟橋 宏代		3 時限
9	文化人類学 I	齋藤 千恵		4 時限
10	観光概論 I	富本 真理子		4 時限
11	国際経営論 / 多国籍企業論 I	渡邊 聡	水曜日	1 時限
12	学童保育論	川又 俊則		2 時限
13	日本語文法 I	周 国龍		2 時限
14	マルチメディア演習	原 仁志	木曜日	1 時限
15	中国語 I / 中国語 I - 1	周 国龍		2 時限
16	体力・トレーニング論	田中 利佳		2 時限
17	【短大部】ギター表現	吉田 豊		3 時限
18	ホスピタリティ論	崔 載弦		4 時限
19	授業公開生のための中国語中級 I	周 国龍		4 時限
20	【短大部】心理学	中山 真		5 時限
21	国際関係論 / 国際関係論 I	中野 潤三	金曜日	1 時限
22	【短大部】生コミ特講Ⅳ (音楽療法各論 I)	木村 有里		1 時限
23	経営分析論	高見 啓一		2 時限
24	日本語学概論 I	舟橋 宏代		2 時限
25	言語学 / 言語学概論 I	松倉 信幸		3 時限
26	日本語教授法 I	棧敷 まゆみ		3 時限
27	発達心理学 / 心理学概論 / 心理学概論 I	仲 律子		3 時限
28	経済学総論 / 経済原論 / 経済原論 I	渡邊 聡		3 時限
29	政治学 / 政治学原論 I	木之内 秀彦		4 時限
30	国際経済論 / 国際経済事情 I / 国際経済分析 I	渡邊 聡		4 時限
31	【短大部】生コミ特講Ⅴ (音楽療法各論Ⅱ)	鶴飼 久美子		集中講義 (8/7・8/9・8/10)

	【後期】授業科目	担当講師	曜日	時限
1	発達心理学	中山 真	月曜日	1 時限
2	経営学総論	今光 俊介		2 時限
3	学童保育方法論	川又 俊則		3 時限
4	環境学／人類と地球環境	富田 寿代		4 時限
5	マーケティング・リサーチ	高見 啓一		4 時限
6	サービスマネジメント／フードサービス経営論	崔 載弦		5 時限
7	ビジネス英語Ⅱ	アントニオ ジャン ピエール		5 時限
8	児童文化と表現	大久保 友加里	火曜日	1 時限
9	スポーツコーチング／スポーツ指導論	田中 利佳		2 時限
10	日本政治外交史	木之内 秀彦		3 時限
11	韓国語Ⅱ／韓国語Ⅰ-2	舟橋 宏代		3 時限
12	文化人類学Ⅱ	齋藤 千恵		4 時限
13	観光概論Ⅱ	富本 真理子		4 時限
14	日本語文法Ⅱ	周 国龍	水曜日	2 時限
15	ニューツーリズム・産業観光論	郭 育仁	木曜日	1 時限
16	地域研究 B (アメリカ)	梅田 肇		1 時限
17	中国語Ⅱ／中国語Ⅰ-1	周 国龍		2 時限
18	観光経済学	崔 載弦		4 時限
19	授業公開生のための中国語中級Ⅱ	周 国龍		4 時限
20	【短大部】こころの癒しと音楽	木村 有里	金曜日	1 時限
21	国際法／国際法と国際政治	中野 潤三		1 時限
22	日本語学概論Ⅱ	舟橋 宏代		2 時限
23	組織関係論	高見 啓一		2 時限
24	日本語教授法Ⅱ	棧敷 まゆみ		3 時限
25	イノベーションマネジメント	高見 啓一		4 時限
26	レクリエーション概論	榊原 尉津子		5 時限
27	【短大部】科学と芸術の間 (音楽史)	木村 有里		集中講義 (1/28・2/1・2/2)

※ 1限/9:00～10:30 2限/10:40～12:10 3限/13:00～14:30 4限/14:40～16:10 5限/16:20～17:50

※ 詳細はこちらをご覧ください

→[https://suzuka.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL\\_SyllabusKensaku.aspx](https://suzuka.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx)

### 3. 平成29年度 予定表

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 学年暦【前期】4月～6月 ※○の数字は、授業回数を表す

4月				5月				6月			
	大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等
1土	入学式	入学式		1月			振替休日 (4/1)	1木			
2日				2火			振替休日 (6/11)	2金			
3月	オリエンテーション 健康診断・履修登録	オリエンテーション 健康診断・履修登録		3水				3土			短大部保護者会
4火	オリエンテーション 履修登録	オリエンテーション 履修登録		4木				4日			
5水	学外研修(国際人間科 学部1年対象) 履修登録	オリエンテーション 履修登録		5金				5月			
6木	① 前期授業開始	前期授業開始		6土				6火			
7金	①			7日				7水			
8土				8月				8木			
9日				9火				9金			
10月	①			10水				10土			
11火	①			11木	春まつり (1年対象)	春まつり (1年対象)		11日			オープンキャンパス
12水	①			12金				12月		保育実習Ⅱ	
13木	② 履修確認 変更期間	履修確認 変更期間		13土				13火			
14金	②			14日				14水			
15土				15月				15木			
16日				16火				16金			
17月	②			17水				17土			
18火	②			18木				18日			
19水	②			19金				19月			
20木	③			20土				20火			
21金	③			21日				21水			
22土				22月				22木			
23日				23火				23金			
24月	③			24水				24土			教員免許状 更新講習
25火	③			25木				25日			教員免許状 更新講習
26水	③			26金				26月			
27木	④			27土				27火			
28金	④ 履修登録 取消期限日	履修登録 取消期限日		28日				28水			
29土				29月				29木			
30日				30火				30金			
				31水							

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 学年暦【前期】7月～9月 ※○の数字は、授業回数を表す

7月				8月				9月			
	大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等
1 土				1 火	試験日	試験日 給食管理実習Ⅱ		1 金		再試験日	
2 日				2 水	試験日	試験日		2 土			
3 月	⑫			3 木				3 日			
4 火	⑫			4 金				4 月		幼稚園教育実習Ⅱ 及び保育実習Ⅰ	
5 水	⑫			5 土			オープンキャンパス	5 火			
6 木	⑬			6 日				6 水			
7 金	⑬			7 月				7 木			
8 土			オープンキャンパス	8 火				8 金		再試験成績 発表日	
9 日				9 水				9 土			AOⅠ期(こ) AO・OC型(国) Ⅰ期(院)
10 月	⑬			10 木				10 日			
11 火	⑬			11 金				11 月			
12 水	⑬			12 土				12 火			
13 木	⑭			13 日				13 水			
14 金	⑭			14 月				14 木	後期履修登録	後期履修登録	
15 土				15 火				15 金	後期履修登録	後期履修登録	
16 日				16 水			振替休日 (7/8)	16 土			
17 月	⑭		授業日	17 木			振替休日 (7/17)	17 日			
18 火	⑭			18 金			振替休日 (8/5)	18 月			
19 水	⑭			19 土				19 火		後期履修登録	
20 木	⑮			20 日				20 水	① 後期授業開始	後期授業開始	
21 金	⑮			21 月				21 木	①		
22 土				22 火			教員免許状 更新講習	22 金	①		
23 日				23 水			教員免許状 更新講習	23 土			
24 月	⑮			24 木			教員免許状 更新講習	24 日			
25 火	⑮			25 金	成績発表 成績疑義申立期間	普通救命講習Ⅰ 成績発表 再試験手続日 成績疑義申立期間		25 月	①		
26 水	⑮	前期授業終了	前期授業終了	26 土			AOⅠ期(短)	26 火	①		
27 木	補講日	補講日		27 日			AOⅠ期(短)	27 水	② 履修確認 変更期間	履修確認 変更期間	
28 金	補講日	補講日		28 月		再試験手続日		28 木	②		
29 土				29 火				29 金	②		
30 日				30 水				30 土			
31 月	試験日	試験日 給食管理実習Ⅱ		31 木		再試験日					

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 学年暦【後期】10月～12月 ※○の数字は、授業回数を表す

10月				11月				12月			
	大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等
1日				1水	⑦			1金	⑩		
2月	② 履修確認 変更期間	履修確認 変更期間		2木	⑦			2土			
3火	②			3金				3日			
4水	③			4土				4月	⑪		
5木	③			5日				5火	⑪		
6金	③			6月	⑦	幼稚園教育実習Ⅰ		6水	⑫		
7土				7火	⑦			7木	⑪		
8日				8水	⑧			8金	⑪		
9月	③		授業日	9木	⑧			9土			AOⅡ期(短) Ⅱ期(国)
10火	③			10金	⑦			10日			
11水	④			11土			I期(こ・短) AOⅡ期(こ)	11月	⑫		
12木	④			12日				12火	⑫		
13金	④ 履修登録 取消期限日	履修登録 取消期限日		13月	⑧			13水	⑬		
14土				14火	⑧			14木	⑫		
15日				15水	⑨			15金	⑫		
16月	④			16木	⑨			16土			
17火	④			17金	⑧			17日			
18水	⑤			18土			I期(国) Ⅱ期(院)	18月	⑬		
19木	⑤			19日				19火	⑬		
20金	⑤			20月	⑨			20水	⑭		
21土	大学祭	大学祭	保護者会(短大部) 教育懇談会(大学)	21火	⑨			21木	⑬		
22日	大学祭	大学祭		22水	⑩			22金	⑬	年内授業最終日	年内授業最終日
23月	⑤			23木				23土			
24火	⑤			24金	⑨			24日			
25水	⑥			25土				25月			
26木	⑥			26日				26火			
27金	⑥			27月	⑩			27水			
28土				28火	⑩			28木			
29日				29水	⑪	学外研修		29金			
30月	⑥			30木	⑩			30土			
31火	⑥							31日			

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 学年暦【後期】1月～3月 ※○の数字は、授業回数を表す

1月				2月				3月			
	大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等		大学	短期大学部	行事等
1月				1木				1木			
2火				2金				2金		保育実習Ⅰ(通所)終了日	
3水				3土			Ⅱ期(短)	3土			Ⅲ期(こ・短)
4木			振替休日(10/9)	4日				4日			
5金			指定休日	5月		保育実習Ⅰ		5月			
6土				6火				6火			
7日				7水				7水			卒業判定会議
8月				8木				8木	卒業決定者発表 在学生成績発表日 成績疑義申立期間	卒業決定者発表 在学生成績発表日 再試験手続日 成績疑義申立期間	
9火	⑭	授業開始	授業開始	9金				9金		再試験手続日	
10水	⑮			10土				10土			
11木	⑭			11日				11日			
12金	⑭			12月				12月			
13土				13火				13火		再試験日	
14日				14水				14水		再試験日	
15月	⑭			15木	成績発表(4年) 再試験手続日 成績疑義申立期間	成績発表(2年) 再試験手続日 成績疑義申立期間		15木			
16火	⑮			16金	再試験手続日	再試験手続日		16金			
17水				17土				17土			Ⅲ期(院) Ⅳ期(国・こ)
18木	⑮			18日				18日			
19金	⑮			19月				19月		再試験成績 発表日	
20土				20火				20火			
21日				21水	再試験日	再試験日		21水			
22月	⑮	後期授業終了	後期授業終了	22木	再試験日	再試験日		22木			
23火		補講日	補講日	23金				23金	卒業式	卒業式	
24水		補講日	補講日	24土				24土			
25木				25日				25日			
26金		試験日	試験日	26月				26月			
27土			Ⅱ期(こ) Ⅲ期(国)	27火	再試験成績 発表日	再試験成績 発表日		27火	在学生オリエンテーション	在学生オリエンテーション	
28日				28水				28水			
29月		試験日	試験日					29木			
30火		試験日	試験日					30金			
31水								31土			

## 4. 大学施設情報

### ○交流スペース

学生ホールに情報収集・交流の場を設けました。授業の合間、授業終了後など、交流にお使い下さい。

### ○図書館

一般開放しています。蔵書の館内閲覧、館外貸出、コピーなどのサービスが受けられます。  
研究室にある図書はご利用いただけません。図書は1度に3冊まで、2週間借り出せます。

開館時間 8:45～17:50

休館日 土・日・祝日・年末年始休み

※その他時間変更、休館日については、大学ホームページで確認、  
または、図書館へお問い合わせください。



### ○学生食堂・売店

D棟2Fには、食堂と売店があります。ガラス張りのこの施設からは、西側に鈴鹿山脈、東側に伊勢湾、北側に鈴鹿の街や鈴鹿サーキットが一望できます。



売店は文房具、お菓子、ジュース等があり、食事や会話をしながら眺められる鈴鹿のパノラマは、本学でも自慢のスポットです。  
授業の合間のコミュニケーションの場としてご利用下さい。

【営業時間】 9:00～16:30

## 5. 交通アクセス

### ■伊勢鉄道（第三セクター、津～四日市間）

中瀬古駅下車 徒歩10分

### ■近鉄

千里駅下車 徒歩25分

または三重交通バス7分（『太陽の街』行きに乗り『鈴鹿国際大学』下車）

### ■スクールバス

スクールバスを無料運行します。運行路線、日程、時刻については掲示板および大学ホームページで確認してください。  
（千里駅からの路線バス（三重交通）を利用される方は、通常料金の210円が必要です。運行日程、時刻については三重交通に確認してください。）

### ■自家用車

学生駐車場をご利用ください。自家用車を利用される場合は申込書の「車両駐車許可願」を記入し申込み下さい。  
車両駐車許可証を発行いたします。

## 6. 授業内容一覧

### 1. 社会学

【担当教員】川又 俊則

【講義目的・内容】

社会学は、複雑な社会の諸問題を脱常識的で複眼的な思考により読み解く学問である。社会学の視点を学ぶことで、日常生活、現代社会、社会問題について全体的な洞察力が養える。パワーポイントを用いて、テキストと配布レジュメをもとに授業を進める。毎回の授業のなかで出される課題を解き、授業が理解できたかどうかを自分自身でも確認していく。「生活統計」「ライフヒストリー」「写真観察法」という3つの切り口で、社会的存在としての人間を理解し、他者と関わり、自分自身を見つめ直す授業とする。言葉を暗記するのではなく、モノの見方を見つめ直すことに重点をおく。とくにテキストを使う回では、「数字にだまされない」という意識が自然に身につくようにする。写真観察法においては、地域社会、三重県や鈴鹿市の現況と課題なども考え、多文化共生の実態とあり方を見直し、地域貢献できるための視座も獲得できるようにする。主に、ディプロマポリシーの「土台となる力」を身につける。

### 2. 【短大部】生コミ特講Ⅲ（音楽療法概論）

【担当教員】木村 有里

【講義目的・内容】

本講義では、ディプロマポリシーにおける土台となる力（音楽療法士として必要な知識や技術）と、つながる力：コミュニケーション能力（他者への寛容さ、芸術的表現、他者との協働性）を習得することを目的とする。音楽療法の定義や歴史的背景を学びながら、音楽療法の基本的な考え方やアプローチについて理解する。また、多岐に渡る音楽療法の対象者の特性やニーズを把握し、国内外で発展してきた音楽療法の様々な手法に触れて、音楽療法の概観を学ぶ。音楽療法の実践、評価、研究、倫理について理解を深める。

### 3. 観光ビジネス論

【担当教員】崔 載弦

【講義目的・内容】

グローバルな視野を備えつつ、地域社会にも貢献できる能力を有するようになるために、様々な観光・ビジネスの概要を知る。三重県を中心として身近な事例にもふれる。

『観光ビジネス未来白書』に沿って、講義を進める。適宜視聴覚教材を使用する。

### 4. ビジネス英語 I

【担当教員】アントニオ ジャン ピエール

【講義目的・内容】

The students who take this class should be prepared to complete exercises in a textbook and then develop dialogues for speaking tests.

The purpose of this course is to learn basic conversational skills that will be useful in an English speaking business/office environment.

## 5.マーケティング論

【担当教員】 今光 俊介

【講義目的・内容】

飽和状態にある現代の市場において、マーケティングの重要性を学ぶことでディプロマ・ポリシーの示す、時代の変化や社会のニーズを読み取り、実践で役立つビジネス・マネジメント能力を養う。また、カリキュラム・ポリシーが示す国際社会と地域社会を理解する基礎的知識の修得を行う。

企業は、自社が扱うモノやサービスの売り上げを伸ばすために、あらゆる努力を行っている。マーケティングとは、そのような「売れる仕組みづくりや仕掛けづくり」に関わる取り組みを指す。本講義では、マーケティングの基本的な概念を京都に立地する企業の豊富な事例を通じて学ぶ。

## 6.モータースポーツ・マネジメント

【担当教員】 富本 真理子／郭 育仁

【講義目的・内容】

本講義の目的は、モータースポーツと地域社会の関係を通して、私たち市民が参画し創造する地域社会の在り方を探り、地域社会に貢献できる能力を身につけることである。

モータースポーツとは、人間の筋肉以外の機械的なモーターやエンジンなどの原動機を使用して稼働する乗り物を用いて行われる競技・スポーツで、競技ランクや競技種別ごとに定められたレギュレーションに従い、速さを競う競技を言う。また、実際には陸上を走る四輪自動車やモーターサイクル（オートバイ）などの車輛を使用したものが一般的で、「自動車競技」や「オートバイ競技」を指す。なお、本学のある鈴鹿市は日本で唯一、「モータースポーツ都市宣言」（平成16年12月24日）を行っている市である。

本講義の特色は、日本国内唯一の F1日本グランプリを開催する鈴鹿市の地の利を活かし、鈴鹿サーキット、行政、商工会議所、民間団体の有識者や実務家たちから現場の実務を学び、本学スポーツビジネス領域及び観光ビジネス領域講師陣の協働のもとで、モータースポーツに関わる基礎知識と活用事例を具体的に習得していく。また、体験学習、調査学習、コミュニケーションカードの利用などアクティブラーニングを取り入れる。

## 7.企業論

【担当教員】 渡邊 聡

【講義目的・内容】

現代ビジネスにおいて企業は中心的な存在であるが、人類の経済社会の歴史を振り返ると企業という組織は必ずしも中心的な存在ではなかった。この講義は現代ビジネスにおける企業とは何か、企業は何を目的として動いているか、市場経済における企業の役割と社会に対する存在意義について考えていく。講義では、経済学・経営学の立場から企業経営・企業組織の意味を、講義を通じて理論的に考えていく。

また、具体的な企業を取り上げて、企業の役割をケーススタディとして考え、アクティブラーニングの一環として考察レポートを毎回作成する。さらには、地域の企業関係者をお招きし、現実の企業経営の意味についてお話を伺いながら、企業経営の現実を考えていく。それらを通じて、「ビジネスマネジメントに関する専門知識」ならびに「時代の変化や社会からの要請、地域の課題に対応しうる実践的な知識」の修得、「国際社会と地域社会を理解する専門知識」および「キャリア形成につながる専門的知識」の習得を目指す。

## 8.韓国語 I / 韓国語 I - 1

【担当教員】舟橋 宏代

【講義目的・内容】

韓国・朝鮮語は日本語と類似した文法構造を持つ一方、その音韻体系と文字表記（ハングル）は、日本語話者にとって一般的に習得に時間がかかると言われている。本講義では、連想法を取り入れた活動で効果的に文字を導入し、旅行や、韓国人との日常会話で役に立つ簡単な会話練習と並行して文字・表記も学ぶ。前期ではハングル完全マスター、韓国でサバイバルできる会話の基礎を確立する。韓国語を通して韓国文化を学ぶことにより、多文化共生社会で異文化を理解し、異言語で情報発信する基礎を築きます。対話、発表練習を中心とした、アクティブラーニング型授業を行う。

## 9.文化人類学 I

【担当教員】齋藤 千恵

【講義目的・内容】

本学を取り巻く地域社会は、国際色豊かな社会である。この社会の一員として、我々は文化の多様性を認識すると共に、異文化を尊重する姿勢を持つことが期待される。本講義は、異文化理解の学問として知られる文化人類学を学ぶことを通して、こうした柔軟性を身につけることを目的とする。我々にとって、自文化はしばしば空気のようなものであり、あっても気が付かないことが多い。この講義を通して、自分が持っている価値観を含む自文化を再認識し、一方で異文化を理解することを目指す。最終的には、多様な文化を持つ人々が平等に生きることができる社会を形成するにはどうしたらいいかということを考えることを目的とする。

## 10.観光概論 I

【担当教員】冨本 真理子

【講義目的・内容】

基本的・総合的な観光の知識や動向を理解することにより、社会からの要請、地域の課題に対応できる実践的な知識とスキルを身につける。

観光に関する話題や出来事から、観光の現在の姿を理解し、社会との関係を考察する。ネット・新聞・雑誌の記事や、DVDなどを活用し、グループ学習、質疑応答、調査学習、ワークシート・コミュニケーションカード記入等、アクティブラーニングを取り入れる。話題に応じてゲストスピーカーを招いて現場からの声も聴く機会を設ける。

## 11.国際経営論 / 多国籍企業論 I

【担当教員】渡邊 聡

【講義目的・内容】

グローバル化(経済のグローバル化)は「ヒト・モノ・カネの国境を越えた移動」と定義できるが、その機能を果たす主役は企業、特に現代において多国籍企業と呼ばれる企業である。多国籍企業は決して我々から縁遠い存在ではなく、街中のいたるところで存在し、身近な就職先である。また、多国籍企業は決して新しいものではなく、17世紀イギリス・オランダの「東インド会社」を先例に、古い歴史を持つ。この400年ほどの世界史は多国籍企業を媒介した交易(と資源獲得競争)の歴史と言い換えてもよいかもしれない。多国籍企業の歴史、経営戦略や経営組織、また企業を取り巻く経営環境を知る

ことは、現在我々が置かれている「グローバル経済の主役」の実情とその背景を知ることになる。この講義は、多国籍企業とはどのような企業であるかを歴史的な経緯を踏まえながら、経営組織の特徴や経営環境の特徴を明らかにする。また多国籍企業の経営戦略・マーケティング戦略などを考察する。さらには、日本の多国籍企業、特に東海地方に本社に置く地域企業の中から代表的な多国籍企業の経営戦略をケーススタディとして考える。このほか新聞記事を使いながら、多国籍企業の現在を知りつつ、そこにどのような経営環境と経営戦略があるのかをディスカッションしていく。

それらを通じて、「ビジネスマネジメントに関する専門知識」ならびに「時代の変化や社会からの要請、地域の課題に対応しうる実践的な知識」の修得、「国際社会を理解する専門知識」および「キャリア形成につながる専門的知識」の習得を目指す。

## 12.学童保育論

【担当教員】川又 俊則

【講義目的・内容】

「学童保育の目的と役割に関する科目」の一つとして、学童保育（放課後児童クラブ）の背景、その現代的意義、目的、役割について学ぶ。児童館や児童厚生員との比較を通じて、それぞれの特徴も理解することが本授業の目的であり、その内容が本授業の概要です。放課後児童指導員資格取得の第一歩として本授業で学童保育（放課後児童クラブ）の全体像を理解する。とくに三重県、鈴鹿市の子育てを例に具体的に見ていくことで、子育て支援の課題と解決方法を深く考える。

主に、ディプロマポリシーの「土台となる力」を身につける。

## 13.日本語文法 I

【担当教員】周 国龍

【講義目的・内容】

この授業では教員の講義だけではなく、受講生が講義の内容について一緒に議論し、日本語教育に必要な文法知識を習得する。そして、日本語学習者がどのように日本語をとらえ、学習していくのか、理解でき、日本語を教えるポイントを身につけることを目指す。

この授業を通して、異文化コミュニケーション能力を高め、グローバル社会に順応できるような能力を養う。

## 14.マルチメディア演習

【担当教員】原 仁志

【講義目的・内容】

世の中には様々な情報があるが、文字、静止画、動画、音声などの情報を総合して扱うのがマルチメディアである。時代の変化によりその重要性は増しており、実践的な知識とスキルを身につける必要がある。この授業ではコンピュータとソフトウェアの関係を学び、デジタル化されたマルチメディア社会に対応でき、キャリア形成に繋がる知識を身につけることを目的とする。主にパソコンを利用して音声の取り込みから編集・圧縮、デジタルカメラ等からの画像取り込み・編集・圧縮、3DCGの作成など総合したマルチメディア情報の知識と扱い方について修得する。

授業では毎回、小テストか演習を行ってファイルに保存し、提出することにより理解度をみる。

## 15.中国語 I / 中国語 I - 1

【担当教員】周 国龍

【講義目的・内容】

中国語とは何か、中国語の発音、文法の特徴などを理解することを目的とする。

前期では中国語の発音、発音記号の書き方を練習します。そして、基本文型の理解と活用を中心に勉強します。中国語で自己紹介、挨拶の練習をします。中国語の特徴などについての説明、基本文型と語彙の習得を主な授業の内容とする。

## 16.体力・トレーニング論

【担当教員】田中 利佳

【講義目的・内容】

この講義は、時代の変化や社会からの要請、地域の課題に対応しうる実践的な知識とスキルを身につけることを目的としている。特に人々の健康の維持・増進に関することは、社会全体の課題である。体力要素の内容や、問題を改善する手段としてのトレーニングを考えることで、その課題に取り組む。

また、グループワークを行うことで、他人の意見を聴く姿勢、自分の意見を相手にわかりやすく伝える工夫などコミュニケーション能力を身につけ、講義で得た知識を使い、自ら考え、目的や健康状態、体力レベルに応じたトレーニング計画を立てられるようになることを目指す。

## 17.【短大部】ギター表現

【担当教員】吉田 豊

【講義目的・内容】

かんたんギター奏は、ギターの調弦を変えることによって、トレーニングなしに様々なギター奏を楽しむ技法である。これを対人支援の現場で生かすためには、まずギターの扱いや移動させる際の留意点を学び、必要に応じて調弦を変えることができる必要がある。その上で、ギターを懐に抱えて響かせる喜びを実感し、それを対象者に伝えるために、様々な歌や曲を現場に使えるように身に付けることを目指さなければならない。

人前でギターを弾いたり歌ったりすることは、自信のなさから恥ずかしい気持ちや照れてしまうことも少なくない。しかし重要なことは、演奏の技術ではなく、対象者に対して一所懸命に働きかけることであり、そこに自分自身の表現が生まれる。この講義では、そのような観点から、うまいへたではなく、自分の歌声、自分のギターサウンドを味わう体験を重ね、自分自身への気づきが増していくことも重要な目標となる。

## 18.ホスピタリティ論

【担当教員】崔 載弦

【講義目的・内容】

内容未定。

## 19.授業公開生のための中国語中級 I

【担当教員】周 国龍

【講義目的・内容】

中国語とは何か、中国語の発音、文法の特徴などを理解することを目的とする。

前期では、中国語の発音の修得、発音記号の書き方、自己紹介、挨拶、中国語の特徴などについての説明、基本文型と語彙の習得を主な授業の内容とする。

## 20.【短大部】心理学

【担当教員】中山 真

【講義目的・内容】

この科目はディプロマポリシーのうち「土台となる力」に関連する。

心理学は“こころ”に関する学問である。日常的に心理テストや血液型性格診断など、心理学っぽいものに触れる機会が多いと思うが、その反面、本当の心理学の姿とはかけ離れたイメージも広まってしまっている。そこでこの授業では、学問や科学としての心理学とはどういうものかを押さえた上で、心理学のさまざまな領域の理論や研究知見について、生活の中での具体例を交えながら紹介する。

キーワード：心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、論理的思考力

## 21.国際関係論／国際関係論 I

【担当教員】中野 潤三

【講義目的・内容】

グローバル化をキーワードとする21世紀の国際関係は、ますます複雑化し一見すると理解困難であるように思われる。しかし、国際関係史を学びながら国際関係における主権国家体制の現存と相互依存関係の深化に注目すれば、様々な国際問題に関する雑多な情報を整理し、現代の国際社会の底流を理解することは可能である。国際関係の歴史を振り返りながら、国際関係の構造や動因に関する諸説を紹介した上で、国際社会の動向を把握することを目的とする。本講義では、国際関係の歴史を概説し、国際関係の理論をリアリズムとリベラリズムの相克という視点から解説することとする。

## 22.【短大部】生コミ特講Ⅳ（音楽療法各論Ⅰ）

【担当教員】木村 有里

【講義目的・内容】

本講義では、ディプロマポリシーにおける土台となる力（音楽療法士として必要な知識や技術）と、つながる力：コミュニケーション能力（他者への寛容さ、芸術的表現、他者との協働性）を習得することを目的とする。音楽療法の対象者は、乳児、児童から成人、高齢者に至るまで幅広い。この講義では、特に乳幼児、児童、青少年に対する音楽療法について学ぶ。対象児の特性や障がいについて知り、音楽療法の事例を通して、音楽療法の目的、方法、評価、記録、考察に至る治療過程について学習する。さらに、模擬実践を通して、子どもに対する音楽療法の実践技術を高める。

## 23.経営分析論

【担当教員】高見 啓一

【講義目的・内容】

ビジネスマネジメントの専門知識である「経営分析」「証券分析」の方法を修得することにより、本学ディプロマ・ポリシーにおける社会人として必須の教養を身に付け、社会からの要請に対応しうる実践的な知識とスキルを身に付ける。また、経営分析は課題を発見して計画を立案して解決する力であり、状況を的確に把握する力でもあることから、本学カリキュラム・ポリシーにおけるキャリア形成につなげる。

経営分析とは広義では、経営戦略や経営内容などの良否を判定・評価し、起業の強みや弱みを分析するものである。狭義には、企業の計算書類である財務諸表の数値を用いて計算・分析し、企業の収益性や支払能力等を評価判定する手法です。経営分析は、就職活動や仕事はもちろんのこと、「優良企業」を探すという意味では、証券投資（株式投資）などにも活用することができる。そこで、本講義では「株式投資ゲーム」を用い、楽しみながら実在する企業の経営分析を行っていく。

## 24.日本語学概論 I

【担当教員】舟橋 宏代

【講義目的・内容】

日本語を「外から」眺め、その特徴、体系的な知識を習得する。

日本語と日本文化を理解し、多文化共生社会において、異文化を背景とし、異言語を母語とする人たちに日本語・日本文化を伝える基礎を養う。三重県、鈴鹿市における生活者に日本語学習支援を行うという多文化共生の課題を解決するための内容設定を行い、獲得した知識を実際に運用するための実演を行うアクティブラーニング型授業を実施する。

## 25.言語学／言語学概論 I

【担当教員】松倉 信幸

【講義目的・内容】

コミュニケーションのやりとりで、異文化を受容する感受性および配慮する適応能力とともに、グローバル化の進む社会でグローバルな視野を備え、地域社会にも貢献・共生し発信するコミュニケーション能力の育成に努める(CP2・3)。また、社会人として必須の教養、日・英語を比較対照してコミュニケーション能力およびホスピタリティマインドを念頭に授業を進める(CP1DP1)。

## 26.日本語教授法 I

【担当教員】棧敷 まゆみ

【講義目的・内容】

地域社会において多文化共生が進む現代、日本語の指導や学習支援を必要とする人が増加傾向にあり、それに対応することが地域課題となっている。

この授業は、外国語教授法及び日本語教授法に関する専門知識を身につけ、日本語の学習指導法を修得することを目的とする。

授業では、日本語教育と外国語教授法に関する講義を行うほか、様々な課題に取り組んだり、クラスメートと共に実践したり、意見交換をしたりする。また、興味深い外国語教授法による授業のDVDを視聴する。单元ごとに課題を課し、期日までの提出が求められる。

## 27.発達心理学／心理学概論／心理学概論 I

【担当教員】仲 律子

【講義目的・内容】

人の発達を学ぶということは、それぞれの発達段階には特有の課題があり、その課題をクリアするために必要となる要素があることを学ぶことでもある。それは、他者や異文化を受容する感受性を配慮する能力を獲得することにもつながる。なぜなら、自分とは異なるもの（他者、年齢、国籍、文化等）を受け入れることにより、自らを豊かにすることができることに気づくことができるからである。また、グローバル化が進む社会の中で、様々な文化的背景を持つ人たちが発達における課題をどのように解決しているのかを学ぶことは、国際社会と地域社会を理解する基礎的な知識にもなる。

以上のポリシーを踏まえながら、人の一生涯における発達について学んでいく。

## 28.経済学総論／経済原論／経済原論 I

【担当教員】渡邊 聡

【講義目的・内容】

「経済学」とは、単なる金もうけの学問ではなく、「人々は、何を目的に、どのようにして経済行動を決定しているのか」「人々の経済行動の結果、社会にとって望ましい結果になっているか」を考える学問である。

この講義は、経済学の基礎的な内容を学ぶことで、経済行動を通じて皆さんが望む結果を導くために、どう考え、どう行動すべきか、社会が望ましい状況になるためにどうすべきかを考えることを目的としている。講義では、人や組織など「経済主体」がどのような意思決定するかを考える「ミクロ経済学」と、社会において富をどのように分配するかを考える「マクロ経済学」を学ぶ。さらには、経済理論の確からしさを確かめるため、講義内で数回アクティブ・ラーニングとして「経済実験」を実施することを予定している。

それらを通じて、「ビジネスマネジメントに関する専門知識」ならびに「時代の変化や社会からの要請、地域の課題に対応しうる実践的な知識」の修得、「国際社会を理解する専門知識」および「キャリア形成につながる専門的知識」の習得を目指す。

## 29.政治学／政治学原論 I

【担当教員】木之内 秀彦

【講義目的・内容】

人間の価値観や利害は互いに「違い」がある。だが「違い」を放置すれば、それは「対立」へと発展し、更には「衝突」へとエスカレートしかねない。政治はそうした相互の「違い」を特定の集団の枠内で解決して集団を統合し、集団の集目的目標を達成しようとする営みといえる。政治はこの意味で、共生の模索の総称であり、この模索の営みを理解しようとするのが政治学である。人間は例外なく何らかの集団に属する以上、この営みから逃れられない。従ってこの営みを学ぶ政治学には単なる教養では済まされない切迫した意味があることも学ぶ。多文化の交錯が進む今日ではますます要求される知識である。

## 30.国際経済論／国際経済事情Ⅰ／国際経済分析Ⅰ

【担当教員】 渡邊 聡

【講義目的・内容】

この講義では、グローバリゼーション（経済のグローバル化）による影響を経済学の枠組みで考えることを目的としている。講義では基礎的な経済理論を使いながら、グローバル経済における自由貿易と保護貿易により国内経済にどのような影響を与えるのかを考える。講義では現実の国際経済において起きている事象を解説し、関連する経済理論の解説をはさみながら受講者間でディスカッションを行う形で進めていく。また、毎回の講義では、講義に関連する課題に関して受講生間でディスカッションし、考察レポートをまとめるアクティブ・ラーニングに基づく講義を展開していく。

それらを通じて、「ビジネスマネジメントに関する専門知識」ならびに「時代の変化や社会からの要請、地域の課題に対応しうる実践的な知識」の修得、「国際社会を理解する専門知識」および「キャリア形成につながる専門的知識」の習得を目指す。

## 31.【短大部】生コミ特講Ⅴ（音楽療法各論Ⅱ）

【担当教員】 鵜飼 久美子

【講義目的・内容】

本講義では、成人・高齢者を対象にした音楽療法を、実践事例をもとに学ぶ。模擬実践（ロールプレイ）では、目的・方法・計画（プログラミング）、記録、評価というプロセスを検証する。また、高齢化社会という現状で、介護予防の視点から、音楽療法による支援法についても学ぶ。

## 1.発達心理学

【担当教員】中山 真

【講義目的・内容】

この科目はディプロマポリシーのうち「土台となる力」に関連する。

こどもやこどもにかかわる保護者・教育者の理解につながるよう人間の発達に関する心理学的基礎知識を習得することを目的とする。また、発達の理解を深めるさまざまな事例を取り上げ、児童期・青年期にかかわる教育者の役割の重要性を認識し、よりよい教育活動につなげることを目的とする。

キーワード：発達観、生涯発達、発達障害

## 2.経営学総論

【担当教員】今光 俊介

【講義目的・内容】

企業の仕組みや社会における役割を体系的に学ぶことで、ディプロマ・ポリシーの示す、時代の変化や社会のニーズを読み取り、実践で役立つビジネス・マネジメント能力を養う。また、カリキュラム・ポリシーが示す国際社会と地域社会を理解する基礎的知識の修得を行う。

我々は貨幣を商品やサービスと交換して、生活に必要なモノを調達して暮らしている。我々の日々の生活は、商業経営と密接な関係を持つことで成り立っている。

本講義は初めて経営学を学ぶ学生向けの導入的置づけの授業であり、今後経営学の専門的な分野を学習する際の基礎となるものである。企業の仕組みや社会における役割を体系的に学ぶことで、基本的な知識を身に付けることを目的としている。

## 3.学童保育方法論

【担当教員】川又 俊則

【講義目的・内容】

学童保育指導員の仕事内容や役割、その専門性について理解する。本授業では、前期科目「学童保育論」で身につけた知識をもとに、専門職としての知識・技能を身につけるために、さまざまなアクティブラーニングを行う。「児童館や放課後児童クラブ」における、専門職の仕事内容、児童の心理や行動、法制度などの理解を深め、放課後児童指導員資格取得を目指す。

## 4.環境学／人類と地域環境

【担当教員】富田 寿代

【講義目的・内容】

環境問題は、時代や地域の文化・風土により異なった様相を呈し、その解決方法も一様ではない。この講義は、グローバル社会で求められる多文化を受け入れる柔軟さを有し、状況を的確に把握し対応しつつ、新たな価値を生み出す力を養成することを目的として、水問題と地球温暖化を取り上げ、それぞれの事象を科学的に解説するとともに、その影響が各地の気候・地形や生活水準により異なる点に注目しつつ相応しい対策とは何かを考える。また安全な生活環境を守るために個人でもできることを検討する。

## 5.マーケティング・リサーチ

【担当教員】高見 啓一

【講義目的・内容】

ビジネスマネジメントの専門知識である「マーケティング」の理論と実践方法を修得することにより、本学ディプロマ・ポリシーにおける社会人として必須の教養を身に付け、社会からの要請に対応しうる実践的な知識とスキルを身に付ける。特に、流通業に求められるマーケティング理論は、課題を発見して計画を立案して解決する力であり、状況を的確に把握する力でもあることから、本学カリキュラム・ポリシーにおけるキャリア形成につなげる。

我が国の流通を取り巻く環境は急激かつ大きく変化しており、「モノの売れない時代」であるといえる。このような状況のもとで、流通業界で最も必要とされているのは、多様化・高度化した顧客のニーズを的確に捉える「マーケティング志向」の経営であり、豊富な商品知識や顧客に配慮した接客技術を武器として、「顧客が本当に欲しいモノを適切に提供すること」である。本講義ではそのための理論や技術を、実在企業の事例なども幅広く取り上げながら学ぶ。授業方法としては、双方向型・討論型のアクティブラーニングとする。

## 6.サービスマネジメント・フードサービス経営論

【担当教員】崔 載弦

【講義目的・内容】

本講義では、企業で実践されているサービスとそのマネジメントについて理解することを目的とする。サービスは業種を問わず、営利・非営利の企業、組織、団体に重要な要素となってきた。そのため講義では、まず現代社会において、なぜサービスが求められているのかについて説明を行う。特に「サービス」という用語の定義、特性、サービス産業の特徴について説明する。次に経営学の視点から、企業でサービスを発揮するためには、どのようなマネジメントのあり方が必要なのかについて解説する。「お客様は神様か」「すべてのお客様を満足させることは可能なのか」サービスマネジメントの理論と実践に基づいて皆さんと考えていきたい。また、将来的に受講生自身がサービスを実践できるような知識と経験を習得することに加え、従業員がサービス精神を醸成させるような仕組みづくりが検討できるように、企業で起きている実際のケースを取り入れながら進めていく。

本講義は「日本語」で行うが「サービスマネジメント」の学問は欧米で研究が盛んなため、英語の文献を狩猟できる方、英語で自らの意見を発信できる方の受講を歓迎する。

さらに、アクティブラーニング(反転授業:予習の段階で理論学習(読解)→授業ではケーススタディによる演習に解答)を取り入れる予定です。e-learningを積極的に活用し、ディスカッションを重視するので、自らの意見を発信できる方、他人の意見を客観的に捉える訓練に意欲のある方の受講を歓迎する。

## 7.ビジネス英語Ⅱ

【担当教員】アントニオ ジャン ピエール

【講義目的・内容】

The purpose of this class is to introduce students to basic english related to business/ office situations. There will be some practice of written English (for example writing e-mails) but the emphasis is on spoken English.

The students will be expected to complete the text book and workbook assignments and participate in dialogue tests in pairs or small groups.

## 8.児童文化と表現

【担当教員】大久保 友加里

【講義目的・内容】

「子どもの遊びを様々な表現活動に発展させ、児童文化として成立させるための知識と指導技術を習得する」ことを授業目的とする。

遊びが子どもの心身の発達に及ぼす重要性について学び、作品の制作を通じて様々な児童文化教材の特性を理解する。子どもが興味関心を持つ絵本、紙芝居、パネルシアター、うた遊び等に関する知識や指導技術を学び、子どもが児童文化に親しむ環境構成や、年齢に応じた保育の展開方法について学ぶ。また、保育現場における「音楽」の位置づけについて理解するとともに、豊かな音楽経験を提供する保育者にとって必要な音楽上の知識・技術を習得する。

## 9.スポーツコーチング／スポーツ指導論

【担当教員】田中 利佳

【講義目的・内容】

この講義では、コミュニケーション能力、他者や異文化を受容する感受性と配慮する能力、グローバルな視野を備えつつ地域社会に貢献できる能力を養うことを目的とする。そして、現代社会に通じるコミュニケーション能力と国際社会と地域社会を理解する専門知識を修得する。

スポーツに親しむ人は年々増加している。そしてスポーツ指導者を必要とする対象者は、年齢は幼児から高齢者まで、技術水準も初心者から世界トップレベルまでと様々である。また、鈴鹿市は多くの外国人が暮らす国際的な都市でもあることから、スポーツの世界から多文化共生について考える必要がある。様々な対象者に対して、スポーツ指導者が身につけておかなければならない指導理論や方法を、講義やグループディスカッションを通して身につける。

## 10.日本政治外交史

【担当教員】木之内 秀彦

【講義目的・内容】

現在の日本が近隣アジア諸国との関係調整に苦勞している原因の多くは、戦後の日本が敗戦に至る戦前日本の遺産を国際社会が納得できる形で清算できなかったことにある。なぜ清算できなかったのか。そこには日本の内政上の理由だけでなく戦後世界の国際政治上の力学も働いていた。この講義ではそうした角度から戦後日本の政治と外交の基礎を学ぶ。「過去」を知ることで「現在」もより理解できる。というよりも歴史を学ぶのは「今」を理解したいからである。これを念頭に授業を展開する。

## 11.韓国語Ⅱ／韓国語Ⅰ-2

【担当教員】舟橋 宏代

【講義目的・内容】

韓国・朝鮮語は日本語と類似した文法構造を持つ。後期は、旅行や、韓国人との日常会話で役に立つ簡単な会話練習と並行して、前期で導入し基礎のできたハングル文字での読み書きができるようになることを目指す。韓国語を通して韓国文化を学ぶことにより、多文化共生社会で異文化を理解し、異言語で情報発信する基礎を築く。対話、発表練習を中心とした、アクティブラーニング型授業を行う。

## 12.文化人類学Ⅱ

【担当教員】 齋藤 千恵

【講義目的・内容】

経済のグローバル化や政治・経済的な理由からの移民、マスメディアや交通手段の発達などにより、人々は今まで以上に多様な文化にさらされている。実際、本学が位置する三重県にも、また、鈴鹿市にも、日本語以外の言語を母語とし、異なった文化を持った人々が居住している。ひとつの社会の中に多様な文化が存在するのである。本講義は、文化の多様性を理解することを第一の目的とする。第二の目的は、トランスナショナル時代、グローバル時代と呼ばれる今日の社会での文化の動態を理解することである。

## 13.観光概論Ⅱ

【担当教員】 富本 真理子

【講義目的・内容】

基本的・総合的な観光の知識や動向を理解することにより、社会からの要請、地域の課題に対応できる実践的な知識とスキルを身につける。

観光に関する話題や出来事から、観光の現在の姿を理解し、社会との関係を考察する。ネット・新聞・雑誌の記事や、DVDなどを活用し、グループ学習、質疑応答、調査学習、ワークシート・コミュニケーションカード記入、身近な地域のフィールドワーク等、アクティブラーニングを取り入れる。話題に応じてゲストスピーカーを招いて現場からの声も聴く機会を設ける。

## 14.日本語文法Ⅱ

【担当教員】 周 国龍

【講義目的・内容】

この授業では教員が講義をするだけでなく、受講生が講義の内容について一緒に議論する。日本語学習者がどのように日本語を学習していくのかを理解できるようになること、その上、日本語教育に必要な文法知識の習得を目指す。

・外国語として日本語を教える時に、日本語が自然に身についた母語話者は日本語を客観的にとらえ、日本語文法を再度整理し、理解する重要性を説明する。その上、外国語として日本語を勉強する人にとっては習得の難点がどこにあるのか、何故難しいのかを説明する。外国語として日本語を教えるために必要な日本語文法の事項について説明し、その基礎的な文法知識を身につけ、学習者の習得の難点についてどのように教えればよいかを説明する。

・講義を行ったあと、理解度の確認のために課題を課する事がある。但し、学生の人数や理解度などに応じて、授業計画を変更、調整する場合がある。

この授業で物事を柔軟に考えることができるようにし、異文化コミュニケーションへの理解を深める。

## 15.【短大部】科学と芸術の間（音楽史）

【担当教員】木村 有里

【講義目的・内容】

本講義では、ディプロマポリシーにおける土台となる力（音楽療法士として必要な知識や技術）を習得することを目的とする。人類がまだ言葉を持たない頃に情報伝達手段として発生した音楽は、文明の発展と共に、より複雑で洗練された形となり、美の中に作曲者の精神世界を現実化する文化的活動へと発展した。時代の移り変わりの中で様式も変化してきたが、いつの時代も音楽は人々の心を動かし、ときには価値観までを動かす力を持っていた。本講座では、人間の心と音楽の関係、音楽表現の意味などに触れながら、音楽の歴史を理解することを目的とする。

## 16.ニューツーリズム・産業観光論

【担当教員】郭 育仁

【講義目的・内容】

ニューツーリズムとは、従来の物見遊山的な観光形態に対して、これまで観光資源として認知されてこなかった地域固有の資源を活用し、体験や交流型の要素を取り入れた新たな観光形態を指す。例えば、グリーンツーリズム、エコツーリズム、スポーツツーリズム、産業観光等が挙げられ、地域の特性を活かしながら、新たな旅行商品化、地域活性化の可能性が期待されている。

本講義では、ニューツーリズムの概要や現状と課題についてテーマを変えながら紹介していくことにする。それにより、地域社会の課題に対応しうる実践的な知識を含めて、問題発見から解決策の作成、実施の結果などを考察する。

## 17.地域研究 B（アメリカ）

【担当教員】梅田 肇

【講義目的・内容】

日本と日本人に大きな影響を与えている、アメリカ合衆国のサブ・カルチャーについて講義を行なう。具体的には、教育とスポーツに焦点をあて、日本との比較も交えながら、多角的にかつわかりやすく解説を進めていく予定である。

グローバルな視点を持ちつつ(DP2)、多文化社会・米国の概念を理解して(DP1)、その問題を認識し、解決策を考えてみよう(CP2)。

## 18.中国語Ⅱ／中国語Ⅰ-2

【担当教員】周 国龍

【講義目的・内容】

簡単中国語の会話能力と作文能力ができるようにし、中国語の勉強能力を養い、今後の独学での中国語の学習能力を養成する。また外国語を勉強する過程で、異文化を受容する能力を高め、グローバル社会の視野を持った人になり、共生する能力を高める。

## 19.観光経済学

【担当教員】崔 載弦

【講義目的・内容】

時代の変化や社会からの要請、地域の課題に対応しうる実践的な知識とスキルを観光による地域経済振興という観点で応用できる力を身につけるようになる。グローバルな視野を備えつつ、地域社会にも貢献できる能力を有するようになる。

前半は、データをみながら、現在の観光の状況を分析・考察する。後半では、地域の持続可能性を重視する観光として、地域経済、地域社会、地域文化の調和を図る事例を分析し、地域経済振興を目指すこれからの観光のあり方を考察する。ゲストスピーカーをお招きしてお話を伺う機会も適宜設ける。フィールドワークも予定している。

## 20.授業公開生のための中国語中級Ⅱ

【担当教員】周 国龍

【講義目的・内容】

中国語とは何か、中国語の発音、文法の特徴などを理解することを目的とする。

前期では中国語の発音の習得、発音記号の書き方、自己紹介、挨拶、中国語の特徴などについての説明、基本文型と語彙の習得を主な授業の内容とする。

## 21.【短大部】こころの癒しと音楽

【担当教員】木村 有里

【講義目的・内容】

本講義では、ディプロマポリシーにおける土台となる力（音楽療法士として必要な知識や技術）と、つながる力：コミュニケーション能力（他者への寛容さ、芸術的表現、他者との協働性）を習得することを目的としている。社会に生きる人間は、人間関係の不具合や仕事や騒音といった様々な要因で身体的・精神的なストレスを抱えていることが多い。中でも、精神的ストレスは、他人には理解されにくく、一人で抱えていることが多い。このような心のストレス解消法の一つに、音および音楽を用いた音楽療法的アプローチがある。心地よい音楽とは何か、音楽療法とは何か、どのような方法で関わるのか、どのように私たちの生活の中に応用できるのかなどについて、トーンチャイムや手話合唱など実践を通して体験しながら学ぶ。

## 22.国際法／国際法と国際政治

【担当教員】中野 潤三

【講義目的・内容】

国際法は国際社会の平和と秩序を維持するための国際社会の法である。国際社会の平和と安全を考える国際法学は、同様な理念を持つ国際政治学と不離の関係にある。本講義では、国際法の基本理念を解説した上で、国際政治学の研究対象と重なる国際紛争の平和的解決と国際安全保障、武力紛争の規制を中心に講義を行うこととする。これによって、国際社会に関する知識を深め、国際問題の本質を理解することを目的とする。

## 23.日本語学概論Ⅱ

【担当教員】舟橋 宏代

【講義目的・内容】

日本語を「外から」眺め、その特徴、体系的な知識を習得します。

日本語と日本文化を理解し、多文化共生社会において、異文化を背景とし、異言語を母語とする人たちに日本語・日本文化を伝える基礎を養います。三重県、鈴鹿市における生活者に日本語学習支援を行うという多文化共生の課題を解決するための内容設定を行い、獲得した知識を実際に運用するための分析を行い、それについて意見交換を行う、アクティブラーニング型授業を実施します。

## 24.組織関係論

【担当教員】高見 啓一

【講義目的・内容】

ビジネスマネジメントの専門知識である「組織マネジメント」は、グローバル化の中において他者や異文化を受容する感受性と配慮する能力に直結する能力であり、その方法を修得することにより、本学ディプロマ・ポリシーにおける社会人として必須の教養を身に付け、社会からの要請に対応しうる実践的な知識とスキルを身に付ける。また、組織管理は課題を発見して計画を立案して解決する力であり、状況を的確に把握する力でもあり同時に、他者との意志疎通を円滑にするコミュニケーション能力でもある。このような現代社会に求められる力を身に付けることにより、本学カリキュラム・ポリシーにおけるキャリア形成につなげる。

組織とは、構成員(たとえば社員)の働きと成果を「 $1+1=2$ 」ではなく、「 $1+1>2$ 」にするために、業務の役割分担と統合調整を図るものであり、このパフォーマンスを最大化することが組織マネジャーの役割である。みなさんも、就職等により組織に属する以上は、多かれ少なかれこのような組織マネジメントに関わることになる。そこで、本講義では組織マネジャーに求められる能力として、コミュニケーションやリーダーシップのあり方を実践的に学ぶ。

## 25.日本語教授法Ⅱ

【担当教員】棧敷 まゆみ

【講義目的・内容】

地域社会において多文化共生が進む現代、日本語の指導や学習支援を必要とする人が増加傾向にあり、それに対応することが地域課題となっている。

この授業は、日本語教育のコース・デザインから授業の実際、評価に至るまでについて、実践的な知識や技能を修得することを目的とする。「日本語教授法Ⅰ」に続く科目なので、履修済みであることが望ましい。

授業では、日本語の指導について講義を行うほか、受講生が教室活動案を考えたり、教材や練習問題などを作成したりし、それらを実践する。そして、実践の感想などを話し合い、改善案を検討する。単元ごとに課題を課し、期日までの提出が求められる。

## 26.イノベーションマネジメント

【担当教員】高見 啓一

【講義目的・内容】

ビジネスマネジメントの専門知識である「イノベーション」や「起業」の理論や実践方法を修得することにより、本学ディプロマ・ポリシーにおける社会人として必須の教養を身に付け、社会からの要請に対応しうる実践的な知識とスキルを身に付ける。また、起業スキルとは課題を発見して計画を立案して解決する力であり、状況を的確に把握する力でもあることから、本学カリキュラム・ポリシーにおけるキャリア形成につながる。さらに、知識と実践を結びつけられるよう、学内における問題解決の知識習得とともに、コミュニティビジネスをはじめとする地域社会での実践例の見学や研修によって地域の諸問題を理解し、地域社会の課題に対応できる力を身につける。

イノベーションとは、「新結合」と訳され、新製品や新サービスの創出を意味するほか、新たな知識の活用法なども指す。この講義では、ビジネスイノベーションである「起業」にスポットを当て、会社を作るために必要な知識を戦略面・戦術面の双方から学ぶ。実際の起業家の実例も聞く。講義を通じて各自のビジネスプランを策定し、3年次演習の土台としていこう。

## 27.レクリエーション概論

【担当教員】榊原 尉津子

【講義目的・内容】

この授業のねらいは、レクリエーション・インストラクターとして活動をおこなう際に、必要となる理論と実践についての知識および「考え方」を学ぶことにある。その上で、実際にレクリエーション・ワークを自分たちで企画し、体験することによって、その効果を感じ、机上で学ぶ「理論と実践」を仲間とともに深めていく喜びを味わうことも、この授業の重要な目的として挙げられる。

# 平成29年度 授業公開受講申込書

以下の必要事項をご記入の上、FAX、E-mail、郵送でお申し込みください。

FAX 番号 : 059-372-3935 E-mail : kyomu@m.suzuka-iu.ac.jp

◆ お申し込みいただきました個人情報は、授業公開以外には使用しません。

送信先	鈴鹿大学・鈴鹿短期大学部 学生支援課		
件名	授業公開受講申し込み		
単位認定 (試験・成績判定必須)	受ける		受けない
受講希望科目			
お名前	フリガナ		
ご住所	〒		
生年月日	年	月	日 ( 年齢 歳 )
電話番号	ご自宅		
	携帯		
FAX番号			
どちらかに○を付けて下さい。	本学の授業公開を 1. 受講したことがある 2. はじめて受講する		

## 駐車・駐輪許可願 (授業公開)

自動車、バイクで通学を希望される受講生は、該当する番号に○をつけ、必要事項を記入して下さい。

※通学にあたっては、交通法規を守り、交通安全に努めるとともに、本学において定められた規則を厳守とする。

### 1. 自動車

車名		色	自動車登録番号 (ナンバープレート)
メーカー	車種名		

### 2. バイク・原付

車名		色	自動車登録番号 (ナンバープレート)
メーカー	車種名		